

年 譜

明治三四年七月三日 愛知県丹羽郡岩倉町大字八劔一一番地に生まる。

大正二年三月 岩倉尋常小学校卒業

〃 三年三月 岩倉高等小学校第一学年修了

〃 三年四月 愛知県立第一中学校入学

〃 八年三月 同校卒業

〃 八年九月 第八高等学校理科甲類入学

〃 一一年三月 同校卒業

〃 一一年四月 京都帝国大学経済学部入学

〃 一四年三月 同経済学部学士試験合格

〃 一四年四月 京都帝国大学大学院入学、経済原論を専攻し、田島錦治、河上肇両博士の指導を受ける。昭和四年三月退学

昭和二年四月 姫路高等学校講師嘱託

〃 三年四月 立命館大学講師

〃 四年四月 同助教授

〃 八年七月 満洲産業建設学徒研究団に参加し、約一ヶ月間満洲各地を歴訪す。

- 昭和九年四月 立命館大学高等商業科教授兼任  
" 一一年四月 同大学教授  
" 一五年九月 同高等商業科部長  
" 二一年四月 同大学専門学校部長  
" 二五年九月 文部省学術用語分科審議会(経済学用語専門部会)専門委員  
" 二六年四月 立命館大学学生部長  
" 二六年四月 大阪学芸大学講師  
" 二六年九月 文部省C・I・E共同主催厚生輔導研究会講師  
" 二六年九月 関西社会事業教育聯盟委員  
" 二七年四月 立命館大学経済学部長  
" 二八年四月 同大学大学院経済研究科長  
" 二八年九月 京都府統計研究会主催、統計作品募集審査員  
" 三三年四月 大阪歯科大学講師

右のほか、戦後、日本経済政策学会理事、社会政策学会幹事となる。

著 書

工業政策	昭和25年12月	三和書房
工業政策増訂版	" 26年9月	三和書房
社会政策講義	" 25年12月	三和書房
社会政策	" 36年9月	啓文社

論 文

キャナンのスミス価値論批評	昭和6年9月	立命館学叢
産業復興法のもとに於ける労働	" 9年6月	法と経済第一卷第六号
一九三三年ドイツ新カルテル法	" 10年3月	" 第三卷第三号
工業組合と中小工業の統制	" 10年3月	立命館大学三十五周年記念論文集
北米合衆国に於ける技術的失業の問題	" 10年8月	法と経済第四卷第二号
中小商工業金融に於ける債務保証及び損失補償制度	" 10年10月	第六卷第四号
カーバアの労働時間短縮の理論	" 12年2月	第七卷第二号
工業組合法の改正	" 14年5月	第十一卷第五号
工業就業時間制限令の施行	" 14年8月	第十二卷第二号

中小工業に於ける労働保護	〃	15年4月	〃	第十三卷第四号
中小工業再編成の進展	〃	17年10月	〃	立命館大学論叢第九輯
中小企業の組織化	〃	24年9月	〃	法と経済第一〇八卷第一〇九号
最低賃金制の課題と展望	〃	26年9月	〃	立命館大学五十周年記念論文集
中小工業と長期金融	〃	27年4月	〃	立命館経済学第一卷第二号
中小企業対策としての調整組合に関する問題点	〃	27年12月	〃	第一卷第五号
危機に立つ独占政策	〃	28年8月	〃	第二卷第四号
最近の中小企業立法	〃	28年12月	〃	第二卷第六号
新企業担保制度に関する若干問題	〃	30年2月	〃	第三卷第七号
中小企業団体組織法案の問題点	〃	32年1月	〃	第六卷第一号